

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和８年度第４回戸田市外部評価委員会 (施策１４ 障がい福祉環境の整備・充実)
開催日時	令和８年８月６日（木）１３時１５分 ～ １４時３９分
開催方法	５０１会議室
出席者氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基 委員 濱田 和輝 委員 田中 治夫 委員 宮崎 仁美 委員 饗場 順子 委員 須永 由美子
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	健康福祉部 清水次長 障害福祉課 長友課長、金田主幹、小島主幹 教育政策室 片境室長、田野課長、菊地主幹
事務局	渡辺課長 石嶋主幹 藤田主任 大原主事
議 題	１ 外部評価委員紹介 ２ 担当部局紹介 ３ 外部評価ヒアリング
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	１ 次第及びタイムテーブル ２ 施策評価シート及び事務事業評価シート ３ ロジック・モデルシート ４ 事前質問及び回答

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	2 外部評価委員紹介 各委員の紹介を行った。 3 担当部局紹介 評価対象施策担当部局の紹介を行った。 4 外部評価ヒアリング
担当部局	○施策の概要 概要説明を行った。
濱田委員	○事務事業の妥当性、施策指標の妥当性 施策指標「障がい者（児）が相談支援専門員によるサービスの利用支援等を受けた数」が増加傾向にあることに関連して、異なる人から同様の質問を受けることがあると思うが、質問のリスト化やナレッジの共有は行っているか。標準的な回答を共有することによって、効率化が図れると思う。
担当部局	相談支援専門員が集う相談支援連絡会を定期的を開催し、事案の共有を行ったり、基幹相談支援センターが各相談支援事業所のフォローを行ったりしている。市役所障害福祉課内では、一般的な事柄の共有を行っている。
濱田委員	相談記録については、紙や電子媒体等、いつでも誰でも確認できるようになっているか。
担当部局	口頭での共有に加えて、システム上に記録を残すことで、過去の状況は把握できるようにはしている。一方で、多様なニーズがあることから、画一的に答えればよいというわけではないと認識している。
長野委員	事前質問にも関連するが、「心のバリアフリー」の対象範囲を教えてほしい。

担当部局	市内在住・在勤者に、障害とは何かを広く理解してもらい、ソフト面でのバリアフリーを推進する取り組みである。
長野委員	「心のバリアフリー」は、制度やシステムなど社会インフラの部分は関係ないということか。条例や要綱制定など、行政だからこそ対応可能な点を意識していると認識していた。例えば、以前の薬剤師法では、聴覚障害者は薬剤師免許を取得できない欠格条項があったが、そのような制度面でのバリアの解消も含んでいるのか。
担当部局	制度面は対応していないが、共生社会の実現に向けた条例を制定するなど、障害のある人に対する理解や配慮を広げるための取り組みは実施している。
長野委員	ロジック・モデルシートの中間成果欄に「障害者の日常生活における不安の一部が解消される」とあるが、一部としている理由を教えてほしい。
担当部局	あくまで本施策の分野内における一部という意味合いで用いている。具体的には、医療費給付事業及び障害者施設事業からつながる中間成果として、その分野での不安は解消されるという意味合いである。
長野委員	ロジック・モデルシートにおいて、中間成果から施策指標につながる矢印は、シート上に表されているとおり、一部の中間成果しか寄与していないという解釈でよいか。
担当部局	一部の中間成果が特定の施策指標につながるのではなく、すべての中間成果が1つの最終成果につながると理解していただきたい。
長野委員	福祉分野は新しい法律が次々と制定されており、ロジック・モデルシートのアップデート等施策への反映が必要ではないか。
担当部局	手話施策推進法、高次脳機能障害者支援法が制定された。また、来年度は医療的ケア児支援法の改正を控えている。これらは各事務事業の中で取り組

	みを実施することで、「心のバリアフリー」をより一層推進している。
須永委員	施策指標「障がい者（児）が相談支援専門員によるサービスの利用支援等を受けた数」及び「障がい者に対する就労支援サービス件数」は増加傾向にある一方、「障がい者（児）への理解促進を深めた人数」は目標値に遠く及んでいない。講座の開催回数が足りていないのか、参加希望者が少ないのか、原因を教えてほしい。
担当部局	増加傾向にある２つの施策指標については、精神障害者が増加していること、それに伴い、福祉的就労が増えており、対応する事業所の数も増加していることが主な要因である。 「障がい者（児）への理解促進を深めた人数」については、出前講座の受講者数を指しており、前期計画の初めはコロナ禍で実施が少なかった側面がある。なお、今回記載の出前講座は市から学校側に提案し、依頼があった学校において実施したものである。
長野委員	障害福祉課が教育委員会と連携すれば解消できるのではないか。
担当部局	教育委員会と障害福祉課は連携をしているが、各学校の中で行う教育課程は、各学校長が編成をしている。働きかけはしているものの、年度によって実施状況は異なるのが実状である。
須永委員	目標に到達している年度と到達していない年度があるのであれば理解できるが、実際の結果はそうならない。各学校の優先順位の関係で実施できていないのであれば、例えば、学校のカリキュラムに組み込む等はできないものなのか。
担当部局	カリキュラムは学校ごとに異なる。学校では、障害者理解の重要性を認識しているが、他分野にも取り組むべきことが多くある中で、各学校が年度ごとに実施を決めている。
担当部局	今後は学校に限らず、地域の幅広い分野に対して出前講座の実施を働きか

	けることで、障害理解の促進に努めていきたい。
須永委員	戸田市は教育分野が先進的と有名である。障害者への理解促進についてD XやA I のコンテンツを活用してはどうか。
宮崎委員	施策指標「障がい者（児）が相談支援専門員によるサービスの利用支援等 を受けた数」と「障がい者に対する就労支援サービス件数」は、重複してい る人はいるか。
担当部局	「障がい者（児）が相談支援専門員によるサービスの利用支援等を受けた 数」はサービス受給者数であるが、就労支援サービスは利用せず、在宅サー ビスを利用する人などもいるので、一部重複している。
宮崎委員	障害者の全体数を教えてほしい。
担当部局	障害者手帳所持者数の推移としては、身体障害者手帳は年度によってばら つきはあるがほぼ横ばいであり、療育手帳は微増傾向にある。一方、精神障 害者保健福祉手帳は1年で約10%増加しており、令和6年度末は1,39 1名であったのに対し、令和7年度末時点では1,598名に増加した。
饗場委員	市内の小中学校のうち、特別支援学級のある学校数を教えてほしい。
担当部局	市内には小学校が12校、中学校が6校あり、すべての学校で特別支援学 級を設けている。
饗場委員	特別支援学級と通常学級の児童・生徒同士の交流はあるか。
担当部局	個々の状況に応じて、科目や授業内容を決めて交流を図っている。
佐藤委員長	総合振興計画において、施策の目的として「社会のあらゆる活動に主体的 に参加できる」とあるが、ロジック・モデルシートの最終成果には書かれて いない。総合振興計画の方が一歩前進している内容であると思うが、どのよ

	うな議論を経て、最終成果を設定したのか教えてほしい。
担当部局	当時の経緯は認識できていない。主体的というのは、自らの選択・決定に基づいて行動できることであり、これによって日常・社会生活を送れるような状況になるということを、ロジック・モデルシート上の最終成果には記載していると認識している。
佐藤委員長	施策指標は、個別計画の指標を適用しているか。
担当部局	そのとおりであるが、障がい者総合計画は6年ごとに策定しており、個別の見込み値は3年ごとに見直している。施策指標は、令和2年度に策定した総合振興計画策定の際の障がい者総合計画上での数値を転用している。
佐藤委員長	施策指標「障がい者（児）が相談支援専門員によるサービスの利用支援等を受けた数」と「障がい者に対する就労支援サービス件数」は、事業レベルのアウトプットではないか。施策指標の設定に関して、当時どのような議論がされたか確認したい。
担当部局	当時の設定に至る経緯は確認できていない。
長野委員	選挙の投票会場における障害者に関するトラブルが報道されることがある。選挙権は憲法で保障された重要な権利であるが、どのように対応しているか確認したい。例えば、狛江市では、障がいのある人が快適に投票できるような支援を講じている。
担当部局	選挙事務においては、障害者対応を含めた従事者向けマニュアルを整備しており、配慮すべき事項については従事職員に対して事前に周知されている。それに当たり、選挙管理委員会事務局から障害福祉課に相談がくることもある。
佐藤委員長	「戸田市障がいを理由とする差別のない共生社会づくり条例」の認知度を教えてほしい。

担当部局	数値では測っていないが、サービス利用者が増えているという点では認知度が高まっていると認識している。
長野委員	○資源の方向性、その他 事業費の増減について、減少するものと、法改正を踏まえて増加するものの両方があると思うが、相殺できているか。
担当部局	増加額が減少額を大幅に上回っており、事業費ベースで言えば増えている。増加分については、法改正による部分より、利用者の増加の影響が大きい。
長野委員	法改正に伴って現金給付を行うことはあまりないということか。
担当部局	そのとおりである。
長野委員	施設の再整備について、見通しを教えてほしい。
担当部局	障害福祉課で所管している施設としては、戸田市立心身障害者福祉センターと3箇所の福祉作業所の計4施設である。戸田市立心身障害者福祉センターは令和10年度以降に改修を予定しているが、具体的な数値が確定していないため、計画額には反映していない。
佐藤委員長	障害福祉サービスの利用者数の増加に伴う事業費の増加はどのように対応するつもりか。
担当部局	就労支援サービス及び相談支援サービスは法定サービスであることから、利用が増えると、その分事業費が増えることは致し方ないと思う。
佐藤委員長	医療費の一部を削減したことで、事業費全体の増加分を相殺できるか。
担当部局	本施策を持続可能にしていくための1つとして、「重度心身障害者医療費

	支給事業」について、埼玉県の補助対象外となって以降、市単独制度として助成してきた入院時の食事療養標準負担額等の助成を廃止した。しかし、このことに伴う事業費減少額は2,000万程度であり、介護給付費は1年で約3億円増加していることから、相殺は出来ていない状況である。なお、令和10年度以降に予定している戸田市立心身障害者福祉センターの改修については、数億円規模になる見通しである。
長野委員	障害福祉分野における、国・県・市の財源負担割合を教えてください。
担当部局	基本的には国が2分の1、県が4分の1、市が4分の1である。したがって、1年で約3億円増加している分の内訳としては、国が1.5億円、県と市がそれぞれ7,500万円である。
須永委員	外国籍の障害者はサービス利用対象か。
担当部局	国籍を問わず、住民登録があればサービスは利用できる。利用人数はそこまで多くないが、外国籍の障害児は増加傾向にある。
長野委員	総合振興計画にて、「企業への積極的な働きかけを行う」にアンダーラインが付してあり、市として重要な点と捉えていると思うが、具体的な取り組み内容やデータがあれば教えてください。
事務局	総合振興計画にてアンダーラインが付してある部分は、協働会議で出された意見である。協働会議とは、第5次総合振興計画策定に当たり、様々な視点から未来のまちづくりの方向性等について協議し、市長に提言することを目的として、公募市民・団体推薦市民・市議会議員・市職員など、様々な立場にある委員で構成された会議体である。市として重視しているという点に間違いはない。
担当部局	戸田市障害者就労支援センターにて就労希望者と企業とのマッチングを行っている。また、障害者を雇用している企業やハローワークの関係者が集う就労推進部会を設置し、情報共有を行い、障害者の雇用を促進している。

長野委員	「企業への積極的な働きかけ」を測る指標としては、企業側に障害者の雇用を持ちかけたアウトリーチの件数なのか、それとも施策指標「障がい者に対する就労支援サービス件数」のどちらで読み取るべきか。
担当部局	どちらも重要であると認識している。まずは就労支援サービスを利用してもらい、その結果として一般就労につながるか、福祉的就労が適当か等、検討することになる。
佐藤委員長	該当する事務事業を教えてください。
担当部局	「障害者施設事業」において、戸田市立福祉作業所かがやきに就労支援センターを設置している。給付の観点では「自立支援給付事業」が該当する。
佐藤委員長	企業への訪問件数等のデータはあるか。また、企業への働きかけについて、訪問回数等の客観的な数値は把握しているか。
担当部局	委託先からの報告は受けているが、手元にはデータがない。
饗場委員	就業支援に関する金銭的援助の範囲を教えてください。
担当部局	支給決定した範囲であり、福祉作業所であれば作業に従事している限り支給する。企業との雇用契約に基づく一般就労については、就労定着支援サービスを利用する場合は、事業所側に給付費を支給する。
饗場委員	就労に当たり、家族の協力はあるか。
担当部局	家族の協力はケースバイケースであり、例えば事業所への送迎はサービス対象外のため、家族が行っている場合もある。
田中委員	障害者の就労定着が非常に難しいという話を関係者からよく耳にする。

担当部局	同じ認識である。逆に言うと、同じ場所で長く就労することが難しいため、このような福祉サービスがあると言える。就労定着支援としては、利用者と企業側の双方にアプローチをし、適切なサポートを行っている。
田中委員	埼玉県立戸田かけはし高等特別支援学校では、マンツーマンに近い形で指導をしている。市としてはどのような支援を行っているか。
担当部局	18歳までは児童福祉法が適用され、18歳を超えると障害者総合支援法の対象となる。したがって、高校を卒業するタイミングで、福祉的就労や生活介護など、いずれを選択するかについては、市が保護者や学校へのフォローを行っている。
田中委員	埼玉県立戸田かけはし高等特別支援学校の体育館はクーラーが設置されていないそうである。戸田市立の学校の体育館には設置されているか。
担当部局	全学校に完備されている。
5 閉 会	